

## PART II

### ■ フィールドワークの感想

#### ー環境工学の視点から見た日光国立公園の国際化ー

農学部農業環境工学科 4年 藤原 成 悟

私は、2019年11月に行われた「日光の観光モデルを留学生と考える」プロジェクトに参加しました。私自身は2017年8月から約1年間カナダへ交換留学をしていたため、留学生枠で参加させていただくことが出来ました。カナダでは、専門知識を深めるだけでなく、ボランティアやインターシップといった実践活動を現地で行っていました。そして、実践活動の1つとして、カナダ最古の国立公園であるバンフ国立公園でレンジャーの方と約3か月間一緒に住み、ボランティアとして活動しました。国立公園訪問者数について日本の国土交通省とカナダの環境省の統計データで比べると、カナダと日本では約30倍の違いがあり、カナダの方が圧倒的に利用者数は多いです。よって、私の専門である環境工学の視点から日本の国立公園を改善・国際化したいと考え、バンフ国立公園で活動しました。

このようなバックグラウンドがありましたので、今回の日光の観光モデルを考えるという本プロジェクトは私にとって非常に魅力的なものでした。本プロジェクトでは、現地で働かれている方や外国人訪問者の方にインタビューを行い、さらに、人気の観光スポットを日光市の方と訪れることができ、有意義な時間でした。私自身の本プロジェクト感想として、カナダのバンフ国立公園と日本の日光国立公園を比較していきます。まず、町づくりに関してです。バンフは、中心にTown of Banffという町があり、端から端まで約30分で歩くことができ、平坦で、コンパクトな町設計になっています。一方、日光はメインストリートに傾斜があり、長細い形になっている印象を受けました。バンフにおいても感じたことですが、アジア系観光客は基本的に、ハイキングやラフティングなどの自然を楽しむアクティビティをあまりせず、メインストリートを歩き、飲食、ショッピングをして国立公園を楽しみます。(左：日光、右：バンフ)



次に、宿泊についてです。繁忙期の夏と比較してみると、バンフでは、ホステルで一泊約6000円、一流ホテルであれば一泊約6万円となっています。日光では、民泊などで一泊約3000円、一流ホテルで一泊約4万円となっていました。バンフには、高級ブランドショップが点在していて、ターゲット層が富裕層ということもあり、高めの値段設定になっていましたが、日光は比較的安く、滞在しやすいと考えました。(左：日光、右：バンフ)



さらに、交通手段です。バンフは、町にあるホステルに滞在している場合には Roam と呼ばれるバスに無料で乗車することができ、お金のない若者に優しいです。購入した場合でも 1DayPass で約 500 円ぐらいであり、隣町に移動することもできる 1DayPass では約 2500 円です。そして、バスの塗装には、動物が大きくデザインされており、自然を感じることができます。一方、日光は公共交通機関が無く、車が無いと遠くまで出かけることは難しいです。バンフは、お年寄り、家族連れでも、気軽に観光スポットを回ることが出来て、楽しめるので、交通手段は、日光のマイナスポイントであると考えます。(左：日光、右：バンフ)



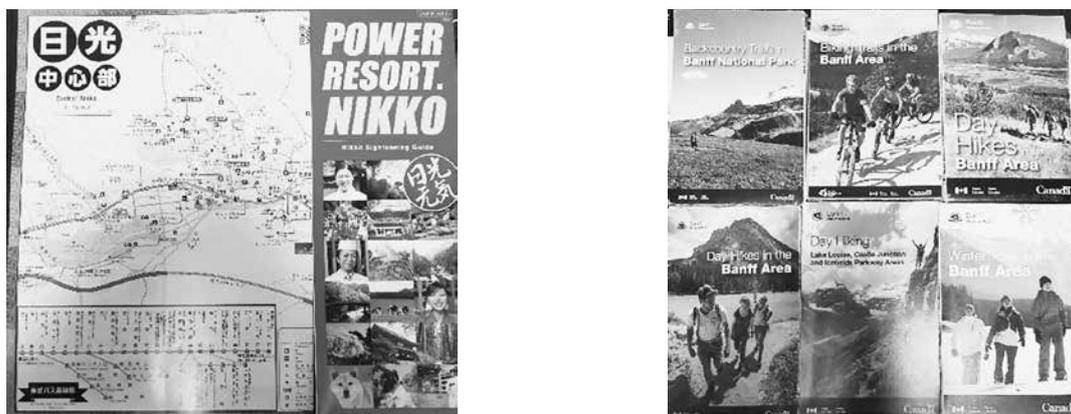
続いて、情報についてです。バンフでは、インフォメーションセンターはメインストリートの中心地点にあり、訪れやすいです。また、案内する方々は Interpretation Ranger といって Parks Canada (カナダ国立公園管理局) に雇用されている案内専門のレンジャーの方々です。動物の専門知識から道案内まで全ての情報を訪ねることが出来ます。日光では、日光駅にインフォメーションセンターが存在し、奥日光には日光湯元ビジターセンターがあるため、情報量は問題ないと考えられます。ビジターセンターの方に詳細は聞いていませんが、自然公園財団と呼ばれる公園管理のプロフェッショナルの方々管理されているようなので、動物の専門知識なども十分であると考えられます。(左：日光、右：バンフ)



また、宣伝についてです。紙媒体とオンラインの宣伝で分けて考えてみます。

バンフはインフォメーションセンターで最低でも 20 種類以上の目的ごとに様々なパンフレットを配っています。デイハイキング、バイキングトレイル、バックカントリートレイル用などです。日光はプロジェクト中に日光市の方に提供されたパンフレットを参考にすると、限られた情報しか提供されていないと考えられます。観光スポットの宣伝は網羅されていましたが、ハイキングなどのアクティビティを好む欧米系観光客に対する情報は、あまりありませんでした。また、下の写真のようにパンフレットのサイズがバンフでは、運びやすいポケットサイズのものでした。これらが、日光の改善点であると考えられます。

オンラインにおいては、バンフは Parks Canada のサイトに全ての情報がまとめられています。また、日光は英語版の日光市観光協会のサイトに分かりやすくまとめられていました。よって、オンライン上で優劣は無いと考えられます。(左：日光、右：バンフ)



最後に、国立公園の利用者は大きく 2 つのデモグラフィックに分けられると、私は考えます。1 つ目がアジア系の訪問者、2 つ目が欧米系の訪問者です。先に述べたように、アジア系の訪問者は、メインストリートを歩き、飲食、ショッピングを楽しみます。一方で、欧米系の訪問者は、ハイキング、ラフティング、アイスクライミングなどのアクティビティを好みます。どちらをメインターゲットとするかでアプローチは変わりますが、どちらにも関係する交通手段の改善が進めば、自然が豊かで素晴らしい場所である日光国立公園の訪問者数増加につながるのではないかと考えました。



日光国立公園



バンフ国立公園